

日本金融学会活性化パネル

中部学院大学 千田 純一

1. 日本金融学会の課題について

・金融経済の分野においては情報化やグローバル化を背景に激しいスピードでかつ多様な変化が生じており、本学会の研究報告の内容なども多様化・高度化・専門化が顕著である。これはいわば当然のことであるが、日本金融学会としてはそうした研究の動向を貨幣・信用を明示的に組み込んだ経済理論（以下、貨幣的経済理論）の立場からインテグレートし、科学的知見の発信・政策提言に繋げていくことが使命であると思われる。

・こうした使命の達成に向けて、本学会は、①共通論題やパネルを拡充して理論・実務・政策などの各分野からの参加者によるディスカッションを一層充実させること、②その際、カレントな動向の意義を主要な学説・理論の立場から議論し、学会として貨幣的経済理論の発展に注力すること、③以上と並行して、個別研究を増やすなど引き続き充実を図ること、などが課題になるとと思われる。

・上記について、近年の日本銀行の金融緩和政策（以下、日銀政策）を例にして敷衍すると、日銀政策は理論、制度、歴史、実証分析などによる総合的分析を要する問題である。仮に理論の面に限定しても、日銀政策は 19 世紀中葉の通貨論争から始まってヴィクセル、ケインズを経て現在のマネー・ビュー v s クレジット・ビューの論争に至る貨幣的経済理論の流れと深く関わる問題であり、本学会においても幾度か取り上げられているが、今後とも多角的に議論さるべきビッグ・イシューであると思われる。

2. 学会の活性化に向けて

・学会の活性化とは、多角的な議論と豊かな人間的交流の場を提供することであると考えられる。厳しい議論と参加することの楽しさが共存する学会であってほしい。

・本学会の活性化の方策や手段については、WG 答申に述べられている論点に概ね賛成であり、それらの論点についてさらに検討を続け、合意を得て順次実施すべきであろう。

・少々補足的意見を述べると、以下の通りである。

①本学会の特徴であるメンバーや研究テーマの多様性に目配りした学会運営を続けつつ、日銀政策で例示したように、専門化・細分化された研究を横断するビッグ・イシューをテーマとして採用して共通論題・パネル・プロジェクトなどの充実を図ること

②新しい動向に対応すべく「ファイナンス部会」などのテーマ別部会を設置すること

③地域別部会において地域の金融・経済界との交流を強化すること

④機関誌は研究大会の様子を伝えることが 1 つの役割であるので、共通論題やパネルの議論を掲載すること

以上